



発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

## 神戸こども初期急病センター



2011年2月受診者数：2545人

### 訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 : 1728人 (1512人)
2. 咳 : 925人 (127人)
3. 嘔吐 : 660人 (351人)
4. 鼻汁 : 660人 (19人)
5. 下痢 : 231人 (54人)

### 疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 735人
2. インフルエンザ : 570人
3. 感染性胃腸炎 : 559人
4. 気管支炎 : 93人
5. 気管支喘息 : 64人



## 今月のワンポイント!



2月は2545人の受診があり、そのうちの1512人は発熱を主な訴えとして受診されました。一昨年のような大流行はないものの、今月も1月に引き続き多くのインフルエンザの患者さんが受診しました。しかし、兵庫県感染症情報センターによりますと、2月にはいりインフルエンザ全体の患者さんは減少傾向にあるようです。

今シーズンは新型インフルエンザ、A香港型、B型インフルエンザの流行がみられると言われています。当センターや病院で行う簡易検査では新型とA香港型はいずれもA型として診断されるためその区別はつきません。そのため、A型かB型かの診断になります。2月は89%がA型で、B型は11%でした。1月はB型が5%足らずでしたから、B型の割合が増えていることがわかります。感染症情報センターによる兵庫県のデータでも新型インフルエンザが減少傾向にあり、他の型の割合が増えてきているようです。

インフルエンザに罹らないように予防することとともに、もし罹った場合には、それを拡げないようにすることも大切です。手洗い、うがい、マスクの着用、咳エチケットなどをきっちりしましょう。そして、疑われる場合は早めに医療機関を受診しましょう。

嘔吐・下痢で発症する感染性胃腸炎は、先月が574人でしたから、ほとんど横ばいの発症率です。兵庫県全体でも1-2月は減少することなく、多くの患者さんが発生しています。この時期の感染性胃腸炎の原因として、ノロウイルスによるものが言われています。吐物などの後始末の時はもとより、普段から手洗いを励行し、感染が拡がらないように注意して下さい。

